豚 肉 情 勢

5月15日 更新　　JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内容
供給	1.国産	○ 3月の全国豚と畜頭数は、1,353千頭と前年下回った。(前年比98.7%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道105.4%、東北98.0%、関東98.1%、北陸甲信越98.1%、東海101.0%、近畿102.8%、中四国96.4%、九州・沖縄97.8% ○ 4月の全国と畜頭数は、1,338千頭(速報値4月30日まで集計、前年比95.0%)と前年を下回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年と同様で、1日当たりの平均と畜頭数は63,724頭(前年実績:67,072頭/日、前年差▲3,348頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;4月21日付け)によると、5月;1,339千頭(前年比98%)、6月;1,299千頭(同109%)、7月;1,303千頭(同99%)、 8月:1,291千頭(同106%)、9月:1,284千頭(同100%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約102%と前年を上回る見込み。
	2.輸入	○ 3月の輸入通関実績は、豚肉全体で66.0千ﾄﾝ(前年比88.7%、前月比91.7%)と前年を下回った。 内訳は、チルドが33.5千ﾄﾝ(前年比98.4%、前月比121.2%)、フローズンは32.5千ﾄﾝ(同80.6%、同73.4%)となった。 国別でみると、チルドではカナダが増加したものの米国、メキシコが減少し、フローズンではほとんどの主要国で減少した。 (参考)形態別相手国別輸入数量 チルド　;カナダ17.3千ﾄﾝ(前年比114.6%)、米国12.4千ﾄﾝ(同85.6%)、メキシコ3.8千ﾄﾝ(同84.7%) フローズン ;スペイン9.1千ﾄﾝ(前年比81.1%)、メキシコ3.6千ﾄﾝ(同58.6%)、米国3.6千ﾄﾝ(同68.9%)、チリ2.7千ﾄﾝ(同83.5%)、カナダ2.2千ﾄﾝ(同57.8%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(4月24日公表)によると、4月の輸入量:87.2千ﾄﾝ(前年比88.3%)、5月の輸入量:82.3千ﾄﾝ(同87.5%)と、ともに下回ると見込まれる。 チルドは、4月、5月ともに円安や現地相場高の影響により米国産の輸入量減少が見込まることから前年同月を下回ると予測する。 フローズンについても、4月、5月ともに現地相場高の影響等により主要輸入先のうち北米産や欧州産の減少が見込まれること等から下回ると予測する。 3か月平均では、チルド、フローズンともに前年同期を下回ると見込んでいる。 令和7年 4月:合計87.2千ﾄﾝ(前年比88.3%)、チルド32.0千ﾄﾝ(同94.9%)、フローズン55.2千ﾄﾝ(同84.8%) 令和7年 5月:合計82.3千ﾄﾝ(前年比87.5%)、チルド31.6千ﾄﾝ(同94.2%)、フローズン50.7千ﾄﾝ(同83.7%) 直近3か月(3月～5月)平均:合計79.0千ﾄﾝ(前年比88.7%)、チルド32.2千ﾄﾝ(同95.3%)、フローズン46.8千ﾄﾝ(同84.7%)
需要	1.家計消費 2.小売動向 3月概況	○ 総務省発表の3月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,910g(前年比99.4%)、支出金額が2,991円(同103.4%)となり、 購入量は前月同月並みだったが、支出金額は上回った。 ○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の3月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,236.2億円(前年比102.3%、既存店ベース101.0%)と前年を上回った。 全般的な相場高が継続し部門としての伸び悩みと豚肉・鶏肉への需要シフトが続いた。牛肉は価格が抑えられる切り落としや小間切れが販売の中心で、週末の売上も伸び悩んでいる。 豚肉は、国産豚の価格上昇もあり輸入豚や味付肉が好調となった。鶏肉は、堅調に推移するも、価格に上昇傾向が見られ伸び悩む店舗もあった。加工品は、好不調の判断がわかれた。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した3月販売概況によると、畜産品の売上は895.0億円(店舗調整後で前年比101.7%)となり、前年を上回った。 豚肉、鶏肉の動きは良かったが、牛肉は鈍かった。鶏卵の動きは良かったが、ハム・ソーセージは鈍かった。
	4月概況	○ 新学期になり学校給食は再開されたものの、コメ等の生活必需品の値上げや青果物価格高騰等により、消費者の節約志向がより高まり需要は伸び悩んだ。 気温の乱高下等から肉豚生育に影響があり、国内出荷頭数は伸び悩んだ。
	3.加工肉仕向量	○ 日本ﾊﾑ･ｿｰｾｰｼﾞ工業協同組合発表の3月の豚肉加工品仕向量は27.4千ﾄﾝ(前年比102.4%)と、加工品の値上げによる販売不振は続くが、前年を上回った。 内訳は、国産原料5.6千ﾄﾝ(前年比104.4%)・輸入原料21.8千ﾄﾝ(同101.9%)となった。 なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは9.0千ﾄﾝ(前年比87.4%)と、前年を下回った。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(4月24日公表)によると、3月末の推定期末在庫量は216.5千ﾄﾝ(前年比114.4%、前月比99.8%)となり、前年を上回った。 内訳は、輸入品;192.1千ﾄﾝ(前年比115.6%、前月比99.6%)と前年を上回り、国産品;24.4千ﾄﾝ(同105.7%、同101.2%)も前年を上回った。 また、今後の期末在庫は、4月は203.4千ﾄﾝ(同103.4%)と前年を上回り、5月は215.0千ﾄﾝ(同100.4%)と前年並みで推移するものと見られる。
枝肉相場	1.R7年4月速報値	○ 4月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;4月30日時点)は、597円/kg(前年比97.4%)と前年を下回った。 4月は、国内出荷頭数は例年と比べると低位となったものの、気温の乱高下による青果物の高値推移や花見需要の伸び悩み等による需要の低迷から、 月中盤まで580円/kg前後で推移した。中盤以降は、GW向けの手当等から高値推移となったが、月平均では、前年・前月ともに下回った。
	2.予測 R7年5月	○ 5月は、GWの反動やコメ等の生活必需品の値上がりから消費者の節約志向がより強まるものの、輸入チルド豚肉の減少や国内出荷頭数の減少等が想定されることから 需給が引き締まる可能性が高く、相場は強含みでの推移を見込む。 ＜相場予想:　東京市場、税込み＞　3月実績　4月実績　5月予測　6月予測 【上物】(前年比)　615円/kg (111.8%)　597円/kg (97.4%)　620円/kg (86.8%)　670円/kg (88.9%)

備考

国内生産量の推移　(千頭:%)

暦年	国内と畜頭数	
	千頭	前年比
R3年	16,836	100.9
R4年	16,577	98.5
R5年	16,407	99.0
R6年	16,266	99.2
R6年　12月	1,464	100.2
R7年　1月	1,404	99.3
R7年　2月	1,290	93.8
R7年　3月	1,353	98.7

農水省出荷予測　(千頭:%)

暦年	出荷予測	
	頭数	前年比
R7年 5月	1,339	98
R7年 6月	1,299	109
R7年 7月	1,303	99
R7年 8月	1,291	106
R7年 9月	1,284	100

輸入量の推移　(ﾄﾝ・%)　財務省 :通関実績

暦年	輸入数量		チルド数量	
	ﾄﾝ	前年比	ﾄﾝ	前年比
R3年	903,455	101.3	420,361	101.0
R4年	977,158	108.3	403,854	96.3
R5年	919,713	94.2	393,416	99.1
R6年	976,482	107.2	384,908	98.4
R6年 12月	76,584	113.0	34,568	112.0
R7年 1月	80,562	111.7	32,069	92.5
R7年 2月	71,961	111.5	27,623	85.4
R7年 3月	66,004	88.7	33,466	98.4

家計消費量　(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り			
	数量	前年比	金額	前年比
R3年	22,559	98.2	31,892	97.1
R4年	22,297	98.8	32,487	101.9
R5年	22,031	98.8	33,553	103.4
R6年	21,829	99.1	33,817	100.8
R6年　12月	1,993	98.6	3,148	102.9
R7年　1月	1,789	98.1	2,901	101.2
R7年　2月	1,722	91.4	2,777	98.9
R7年　3月	1,910	99.4	2,991	103.4

加工品仕向量　(千ﾄﾝ・%)

暦年	加工品仕向量	
	千ﾄﾝ	前年比
R3年	379.4	100.6
R4年	368.5	97.4
R5年	336.4	91.5
R6年	349.2	103.8
R6年　12月	29.0	105.0
R7年　1月	26.1	106.5
R7年　2月	24.8	99.7
R7年　3月	27.4	102.4

市況の推移(東京市場)(円/kg・%)

暦年	豚枝肉「上物」(税込み)	
	円／kg	前年比
R3年	546	97.3
R4年	582	107.0
R5年	609	104.9
R6年	651	106.7
R7年1月	597	121.3
R7年2月	621	104.5
R7年3月	615	111.8
R7年4月速報値	597	97.4